

『とびだせ！旭の森』の実践

札幌市立旭小学校 加藤 秀樹

◆単元のポイント

○学校環境「旭の森」とのかかわり

本校には、「旭の森」と呼ばれる、季節感豊かな雑木林があります。この学校環境を生かして、朝の散策活動「クロスカントリー」が全校的な活動となっています。1・2年生の生活科、3年生以上の総合的な学習の時間「旭の活動」では、この「旭の森」を学習材として活用しています。

○1年生の生活科の学習として

1年生の生活科では、自然にたっぷりとふれる学習として、「旭の森」にかかわる活動を年間カリキュラムの中心に位置付けています。出会いの活



動から始まり、季節の変化とともに子供たちが新たな活動を生み出し、さらに継続・発展していくためにも、日常的に教師の支援が大切です。

○活動の対象・方法・場を広げるには？

活動のマンネリ化や停滞を避けるには、幼少期からの生活経験（草花遊びなど）の繰り

返しや見るだけのような受身的な活動から脱却することがポイントです。季節の変化や友達とのふれあいからの気付きをきっかけに、活動の対象・方法・場を広げる手立てをタイムリーに取り入れています。

- ・対象を広げるために…草花から、木枝や生き物などに目を向かせる
- ・方法を広げるために…道具や材料など、物を持ち込ませる
- ・場を広げるために…「旭の森」から周辺へ活動範囲を広げさせる

◆単元の目標

- 「旭の森」の季節の変化に关心を持ち、自然に親しみをもってかかわろうとする。
(関心・意欲・態度)
- 楽しく遊んだり作ったりするなど、「旭の森」のよさを生かした活動を生み出す。
(思考・表現)
- 「旭の森」の季節の変化や自然のもつ面白さに気付く。
(気付き)

◆単元の構想（22時間扱い）

5～7月

活動①「こんにちは！旭の森」

＜旭の森との出会いの活動＞

- お気に入りを見つけよう
- 草花遊びをしよう
- 草花の絵を描こう



（6時間）

- ・子供たちの自然への興味関心や生活経験を探ることが大切です。
- ・学習参観では親子一緒に草花スケッチをしました。父母にも旭の森を知っていただきました。

8～9月

活動②「楽しもう！旭の森」

＜旭の森のよさを生かした遊び活動＞

- 楽しみ方を考えよう
- 旭の森で楽しもう



（6時間）

10～11月

活動③「秋がいっぱい！旭の森」

＜旭の森の素材を活用した製作活動＞



- 落ち葉や木の実を集めよう
- 落ち葉や木の実で作ろう

（6時間）

- ・図工の学習と関連させます。本校では、旭の森の落ち葉を集めて焼きいもづくりをしています。

12～2月

活動④「冬と遊ぼう！旭の森」

＜旭の森の冬の環境を生かした活動＞

- 旭の森で遊ぼう
- 雪や氷を使って遊ぼう



（4時間）

◆実践するにあたって

身近な学校環境「旭の森」とのふれあいの日常化は、ややもすれば、新鮮な目を失ったり、活動のマンネリ化につながったりすることもあります。子供たちに新たな刺激を与えたり、見方を変えたりするためにも、教室で関心を生むきっかけ（お知らせコーナーやクイズなど）をつくったり、他の学習でも「旭の森」を活用したりするなど、意図的な仕掛けが必要です。

この単元は、1年生を中心とした展開になっていますが、新学習指導要領の移行期からは、「季節の変化と生活」「自然や物を使った遊び」の内容として、2年生でも発展的に扱います。